

平成30年度事業報告書

自 平成30年4月1日

至 平成31年3月31日

社会福祉法人 有田つくし福社会

1 法人の概要

主たる事務所所在地 ……和歌山県有田郡湯浅町大字栖原187番地の1

電話番号 ……0737-64-1866

代表者氏名 ……理事長 西林久子

法人認可年月日 ……平成12年7月14日

法人認可番号 ……441

設立登記年月日 ……平成12年7月21日

2 法人の行う事業

事業の種類 ……第2種社会福祉事業

拠点区分「つくし」

名称 ……つくし共同作業所

事業種別 ……生活介護・就労継続支援B型（多機能型）

管理者名 ……野下康雄

定員／日均利用者数 ……32人／32.9人

全職員数／支援職員常勤換算 ……19人／11.5人（年度末時点：併設分を含む）

備考 ……利用契約者数：41人（年度末時点）

名称 ……つくしんぼショート

事業種別 ……障害者・児童日中一時支援（市町村所管：つくし共同作業所に併設）

拠点区分「早月」

名称 ……早月農園

事業種別 ……就労継続支援B型

管理者名 ……野下康雄（年度末まで）

定員／日均利用者数 ……20人／16.6人

全職員数／支援職員常勤換算 ……12人／4.5人（年度末時点）

就労支援事業指導員数 ……2人（年度末時点）

備考 ……利用契約者数：22人（年度末時点）

拠点区分「オリーブ」

名称 ……カフェ&ベーカリー・オリーブ

事業種別 ……就労継続支援B型

管理者名 ……有本 光

定員／日均利用者数 ……20人／13.5人

全職員数／支援職員常勤換算 ……6人／4.4人（年度末時点）

就労支援事業指導員数 ……6人（年度末時点）

備考……………利用契約者数：22人（年度末時点）

拠点区分「あっぷる」

名称……………あっぷるホーム

事業種別……………共同生活援助、短期入所（共同生活援助に併設）

管理者名……………谷井由記（年度末まで）

定員／日均入居者数……………12人／10.0人

短期入所定員／日均利用者数……………4人／1.3人（延べ478人）

職員数／支援職員常勤換算……………15人／夜勤分を除き5.1人（年度末時点：併設分を含む）

備考……………入居契約者数：12人（年度末時点）

共同生活住居（ホーム）2箇所

拠点区分「センター」

名称……………有田地域生活支援センターつくし

事業種別……………一般・特定・障害児相談支援、市町村相談支援事業（受託）

管理者名……………長尾正子（年度末まで）

職員数……………4人（公益事業を含む）

名称……………有田圏域基幹相談支援センターあねっと

事業種別……………基幹相談支援センター等機能強化事業（受託）

職員数……………1人

備考……………和歌山県福祉事業団と共同受託 事業所は同事業団内

事業の種類……………公益事業

拠点区分「センター」

名称……………有田地域生活支援センターつくし

事業種別……………在宅リハビリテーション推進強化事業（受託）

備考……………本事業は第2種社会福祉事業の有田地域生活支援センターつくしと一体的に運営し、会計も同一拠点区分として処理している。

3 定款変更の状況

・第30条「資産の区分」について、基本財産の追加（オリーブ・支援センター増築分）

平成30年12月15日理事会及び同月25日評議員会にて決議

平成31年1月24日和歌山県受理

4 役員・評議員の状況

役職	氏名	就任年月日	就任要件の区分
理事長	西林久子	平成29年 6月23日	社福事業の経営に識見を有する者
理事	馬谷哲雄	平成29年 6月23日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理事	鬼松光夫	平成29年 6月23日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理事	刑部悦代	平成29年 6月23日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理事	玉置春樹	平成30年12月25日	事業区域の福祉の実情に通じている者
理事	長尾正子	平成29年 6月23日	施設の管理者

理事	野下康雄	平成29年6月23日	施設の管理者
監事	岡八重子	平成29年6月23日	財務管理に識見を有する者
監事	田宮正彦	平成30年12月25日	社会福祉事業に識見を有する者

評議員	家本欣明	平成29年4月1日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	境久	平成29年4月1日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	竹中信義	平成29年4月1日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	栩野さえ子	平成29年4月1日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	中西久光江	平成29年4月1日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	藤原さよみ	平成29年4月1日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	松下加壽美	平成29年4月1日	社福法人の適正運営に識見を有する者
評議員	松本伊央	平成29年4月1日	社福法人の適正運営に識見を有する者

5 評議員会・理事会開催状況

◇ 評議員会

第1回 平成30年6月26日 出席（評議員7人）

議事内容

- 1 平成29年度事業報告・決算について …………… 原案通り承認

第2回 平成30年12月25日 出席（評議員6人）

議事内容

- 1 欠員発生に伴う補充役員の選任について …………… 原案通り承認
- 2 定款の変更について …………… 原案通り承認

◇ 理事会

第1回 平成30年6月11日 出席（理事7人・監事2人）

議事内容

- 1 理事長職務執行状況報告 …………… 原案通り承認
- 2 平成29年度事業報告・決算について …………… 原案通り承認
- 3 諸規程の改定について …………… 原案通り承認
- 4 定時評議員会の招集について …………… 原案通り承認

第2回 平成30年12月15日 出席（理事6人・監事1人）

議事内容

- 1 理事長職務執行状況報告 …………… 原案通り承認
- 2 平成30年度補正予算案について …………… 原案通り承認
- 3 定款の変更について …………… 原案通り承認
- 4 任期満了に伴う苦情解決制度第三者委員の選任について …………… 原案通り承認
- 5 評議員会の招集について …………… 原案通り承認

第3回 平成30年3月28日 出席（理事6人・監事1人）

議事内容

(報告)	1	理事長職務執行状況の報告	報告を確認
(議決)	1	平成30年度補正予算(第2次)について	原案通り承認
	2	平成31年度事業計画・予算について	原案通り承認
	3	諸規程の改定について	原案通り承認
	4	その他	原案通り承認

6 主務官庁による監査等実施状況

実施なし

7 許可・認可・および承認に関する事項

平成30年4月1日付

事業者指定有効期限満了に伴い指定更新

- ・就労継続支援B型「早月農園」(県指定)
- ・一般相談支援「有田地域生活支援センターつくし」(県指定)
- ・特定・障害児相談支援「有田地域生活支援センターつくし」(湯浅町指定)

平成30年6月30日付

事業廃止

- ・特定・障害児相談支援「有田地域生活支援センターつくし」(湯浅町指定：移転の為廃止)

平成30年7月1日付

新規指定

- ・就労継続支援B型「カフェ&ベーカリー・オリーブ」(県指定)
- ・特定・障害児相談支援「有田地域生活支援センターつくし」(有田川町指定)

平成30年10月1日付

事業者指定有効期限満了に伴い指定更新

- ・共同生活援助「あっぷるホーム」(県指定)

8 法人運営に関する特記事項

新事業用建屋増築に伴い、独立行政法人福祉医療機構より50,000千円を新規借入(既存建屋・及び増築建屋を担保提供)

9 運営の状況

◇ 法人運営

財務の健全化を掲げていたが、本年度決算では大幅な赤字という結果であった。また手元資金の減少により資金繰りが厳しさを増しており、財務状況の悪化は深刻である。

赤字の主要因としては、新事業開始等に伴う固定費用の増加の一方で収益が伸びなかったことであり、収益の不調は事業利用者が相応に増えなかったことと事業所分離による報酬単価の下落が影響した。早急な経営再建の方策が必要である。

1、評議員会・理事会の開催

前年度事業報告・決算、役員を選任、諸規程改定、予算補正、苦情解決第三者委員の選任、定款の改定、次年度事業計画・予算などの案件について、評議員会を2回、理事会を3回開催した。

2、事業の整備

前年度より継続していた建屋増築工事が完了したことに伴い、平成30年7月に「カフェ&ベーカリー・オリーブ」(就労継続支援B型：つくし共同作業所出張所が独立)・「有田地域生活支援センターつくし」(一般・特定・障害児相談支援ほか：湯浅町から移転)として開所した。

これに伴い「つくし共同作業所」(就労継続支援B型・生活介護)は、定員を減少させた。

その他の事業は、引き続き「つくしんぼショート」(日中一時支援：つくし共同作業所併設)、「早月農園」(就労継続支援B型)、「あっぷるホーム」(共同生活援助・短期入所)、「有田圏域基幹相談支援センターあねっと」(基幹相談支援センター)を行った。

3、職員の資質・専門性の向上など

年間研修計画をもとに、研修の重要性、職員間の必要性・公平性を考慮しながら職員研修を実施した。本年度は相談支援従事者初任者研修・サービス管理責任者研修を1名(1分野)修了した。他にサービス管理責任者現任研修を2名受講した。

全職員対象の法人内研修を内部講師により計2回実施(福祉制度、虐待防止)した。そのほか研修(複数法人での合同自主研修を含む)を行った分野として、障がい福祉施策の解説・動向、利用者支援として虐待防止・人権擁護・強度行動障がい・精神障がい等、生産活動関連(製パン、農業等)、食品衛生、災害対策、コミュニケーションやリーダー研修など。また法人内有志で自主研修として他法人事業所見学を1回行った。

4、対外活動など

定例的な地域交流行事として、早月農園で「喫茶はやつき」(毎月)、カフェ&ベーカリー・オリーブで「オリーブ秋まつり」(10月)、後援会・保護者会と協同して「つくしバザー」(10月)を開催した。ほか地域団体主催の「ふれあい夏まつり」参加や、地元文化祭への出展、地域行事への参加・販売などを行った。

社会福祉法人の地域における公益的な取り組みとして、引き続き早月農園を実施拠点にした「地域の高齢者家庭への昼食弁当無料提供事業」、及び和歌山県社協主宰による「制度の狭間にある福祉課題・生活課題解決への協同プロジェクト」において活動した。

例年に引き続き、後援会・保護者会及び地域の多数のボランティアから、訪問販売や地域行事での物品販売、農作業指導、さをり商品化、物品寄付等の協力をいただいた。

インターネットホームページ(含ブログ・フェイスブック)及び紙面の「つくしだより」において法人・事業の理念や活動、財務状況など各種情報を発信・公開した。

◇ 各事業

1、拠点区分「つくし」

「つくし共同作業所」「つくし共同作業所出張所(～6月)」(生活介護・就労継続支援B型)

「つくしんぼショート」(併設：日中一時支援)

①事業・定員

・年度当初は、生活介護(定員8)・就労継続支援B型(定員32)を多機能型として、及び併設事業として日中一時支援(つくしんぼショート：地域生活支援事業)を行った。

・7月に出張所が独立し、就労継続支援B型は定員25とした。

②支援内容

生活介護

- ・日常生活支援：毎日の体調チェック、服薬・食事・整容・排泄等の支援、支援プログラムによる定期的な活動（散歩・体操・腹筋運動・創作的活動・買い物・公共施設利用・ドライブ・足浴・音楽療法など）
- ・生産活動：生活介護班として主として企業・農家からの下請け作業
- ・年間延べ利用者数は2,355人（前年度△128人 1日あたり9.0人 定員比112.5%）

就労継続支援B型

- ・生産活動による適性に応じた労働訓練：家庭用品等の下請け、パン訪問販売・配達、煎餅製造・販売、米袋再製品化（年度途中終了）、さをり織り、廃品リサイクル等
- ・一般就労に向けた支援：施設外の実習、一般就労に至った事例は無かった。
- ・年間延べ利用者数は7,209人（7月以降1日あたり23.9人 定員比95.6%）
（参考値：オリーブを併せた通年利用者数は9,878人で前年度+887人）

事業間共通

- ・給食サービスを提供した。必要な利用者にはアレルギー除去食・刻み食を提供した。
- ・外部医療機関による健康診断を1回行った。生活介護以外の利用者も、体調把握のため毎月血圧・身体測定を行った。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・消防・避難等訓練について、消防立会と自主訓練を1回ずつ行った。
- ・法人内事業所全体で「つくし運動会」、自主行事として「オリーブ秋まつり」や忘年会を行ったほか、地域団体等主催の行事に参加した。
- ・合計の年間延べ利用者数は9,564人、7月以降の1日あたり利用者数は32.9人であった。
- ・送迎サービスの延べ利用回数は12,194回（片道1回の計算）、送迎利用率は63.7%であった。

日中一時支援

- ・有田地方自治体（有田市、有田川町、湯浅町、広川町）と契約を継続した。
- ・つくし共同作業所の併設事業として支援日・支援内容は同作業所に準じ、必要に応じ別途対応とする体制で行った。
- ・ここ数年は利用が極めて低水準であるが、本年度も利用実績は2件のみであった。

③生産活動（生活介護・就労継続支援B型計）

<事業収入>

収入額合計	17,294,719円	(7月から出張所独立のため、前年度から約52.7%減)
パン店頭販売・卸売	6,957,914円	} (オリーブと再編・集計方法変更)
パン訪問販売	6,255,646円	
下請け・さをり・煎餅等	4,081,159円	

<利用者工賃（賃金）>

配分額合計 9,349,189円

就労継続支援B型

平均月額	21,198円	(前年度△6,675円)	県標準算出法による
平均時給額	241円	(前年度△78円)	〃
年間最高額	388,503円		

生活介護

平均月額	9,483円	(前年度△2,399円)	県標準算出法による
平均時給額	94円	(前年度△24円)	〃

パン事業

- ・出張所においてパン製造・店頭販売等（出張所独立により6月で終了）
- ・地域のパン訪問販売（有田市・湯浅町・広川町地区）を主として行った。

下請け・さをり・煎餅事業

・引き続き各種の事業に取り組んだ。下請け作業として業者からの家庭用品、農家から出荷ダンボール組み立て、さをり織りや地域の特産品を使った煎餅づくり、リサイクル作業としてアルミ缶ほか廃品類の回収・出荷作業を行った。新たな業者から下請け受注もあり、収入は大幅に増加した。

- ・前年度に始めた米袋再製品化作業は、先方の事情により終了となった。

④その他

出張所の独立で利用契約者数が大幅に減ったため、就労継続支援B型の定員を減少させた（そのままだと職員配置基準が実情に合わないため）。今後利用が増えれば再び定員増を行う予定である。

2、拠点区分「早月」

「早月農園」（就労継続支援B型）

①事業・定員

- ・就労継続支援B型（定員20）を行った。

②支援内容

- ・生産活動による適性に応じた労働訓練：農業に関する作業、パン訪問販売など。両者には明確な活動班の区分を設けず、利用者の体調など時々状況を見て対応した。
- ・屋外作業が中心のため、例年にならい夏季は休憩時間を長くし、その分支援時間を長く設定した。また暑さ対策には入念に配慮を行った。
- ・一般就労に向けた支援：施設外の実習、一般就労に至った事例は無かった。
- ・給食サービスを提供した。
- ・外部医療機関による健康診断を1回を行ったほか、体調把握のため毎月血圧・身体測定を行った。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・消防・避難等訓練について、自主訓練を2回行った。
- ・法人内事業所全体で「つくし運動会」を行った。自主行事として地域交流を兼ねた毎月の「喫茶はやつき」、レクリエーション（バーベキュー、観劇）、クリスマス・忘年会などを行った。また地域団体等主催の行事に参加した。
- ・年間延べ利用者数は4,304人（前年度△93人 1日あたり16.6人 定員比83.0%）
- ・送迎サービスの延べ利用回数は8,389回（片道1回の計算）、送迎利用率は97.5%であった。

③生産活動

<事業収入>

収入額合計 16,246,621円（前年度から約0.2%減）
 農業…………… 13,862,929円（前年度から約0.8%増）
 訪問販売…………… 2,383,692円（前年度から約5.6%減）

<利用者工賃（賃金）>

配分額合計 7,014,011円（前年度から約4.7%減）
 平均月額…………… 30,281円（前年度△17円） 県標準算出法による
 平均時給額…………… 352円（前年度△39円） 〃
 年間最高額…………… 773,810円

- ・工賃実績は前年度に引き続き月額30,000円以上の水準となった。

農業事業

- ・借受農地がさらに広がったが大型台風の被害などに伴い、事業収入は微増にとどまった。
- ・果樹園による果樹栽培、露地・ビニルハウスによる野菜類栽培を行い、出荷、販売した。
- ・栽培品種は、みかん・はっさく・梅等の果樹、白菜、レタス、ふき、ブロッコリー、菜花、玉ねぎ、じゃがいも、里芋、ヤーコン、かぼちゃ、きゅうり、ししとう、なすび、ミニトマト、ピーマン、パプリカ、とうもろこし、ゴーヤ、椎茸、オクラ、まめ、小豆、ニラ、山椒、その他多数に及んだ。
- ・収穫物を利用した自主製品として、自己所有機器によるジャムや加工委託してジュースを製造し販売した。

パン訪問販売事業

- ・事業収入は微減であった。
- ・事業所地元の有田川町地区において、カフェ&ベーカリー・オリーブのパンの地域訪問販売をおこなった。
- ・販売担当エリアが広域で平野部から山間部に及ぶため移動距離が長く、訪問先の状況や需要も様々のため、パンの仕入れと販売・職員体制を工夫して柔軟に対応した。

④その他

- ・29年度末に新たに約1haの果樹園を借り入れ、農地は合計で約4.6haとなった。引き続き農地管理として就労支援事業指導員を2名と地元農家への業務委託で対処した。
- ・夏に到来した大型台風20号・21号により、農地に設置した簡易休憩所と屋外トイレが全壊し、ビニルハウスや作業小屋等の破損、また多数の果樹が倒れたり落果し、事業所開設以来最大の被害となった。

3、拠点区分「オリーブ」

「カフェ&ベーカリー・オリーブ」(就労継続支援B型)

①事業・定員

- ・7月につくし共同作業所出張所から分離し独立事業所となった(9ヶ月・開所日数197日)。
就労継続支援B型(定員20)を行った。

②支援内容

- ・生産活動による適性に応じた労働訓練:「カフェ&ベーカリー・オリーブ」におけるパン製造・店頭販売、喫茶運営、訪問販売・納品等
- ・一般就労に向けた支援:施設外の実習、一般就労に至った事例は無かった。
- ・給食サービスを提供した。必要な利用者にはアレルギー除去食を提供した。
- ・外部医療機関による健康診断を1回を行った。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・消防・避難等訓練について、自主訓練を1回行った。
- ・法人内事業所全体で「つくし運動会」、自主行事として「オリーブ秋まつり」や忘年会、レクリエーションとして焼きそば大会やボウリング等を行った。また地域団体等主催の行事に参加した。
- ・年間延べ利用者数は2,669人(1日あたり13.5人 定員比67.5%)
- ・送迎サービスの延べ利用回数は2,494回(片道1回の計算)、送迎利用率は46.7%であった。

③生産活動（9ヶ月実績）

<事業収入>

収入額合計 22,856,637円（参考値：通年では29,814,551円 前年度から1.8%増）
店頭販売…… 14,096,741円（同：通年では18,927,549円 前年度から4.2%減）
訪問販売…… 2,350,002円（通年同じ 前年度無し）
卸ほか…… 6,409,894円（同：通年では8,537,000円 前年度から10.5%減）

<利用者工賃（賃金）>

配分額合計 5,597,566円
平均月額…… 35,966円 県標準算出法による
平均時給額…… 407円 〃
年間最高額…… 1,066,097円

- ・工賃実績は好調な水準で、初年度から月額30,000円を大きく上回った。

パン事業

- ・自家製生地によるパンの製造・店頭販売、訪問販売、訪販を行う法人内他事業所への卸売、地域の店舗への納品・委託販売などを行った。また店舗内に併設したカフェスペースで喫茶運営を行った。
- ・製造・販売を行う店舗という事業所の特徴を生かし、法人内で最も一般就労の勤務に近い形態（繁忙時間帯を考慮した出退勤時間の設定など）で行った。
- ・販売は店頭が微減、卸売等が減少したが、訪問販売分で補い全体では微増であった。地域に競合店が増えたことなどにより、店頭販売（喫茶を含む）は直近4年間で約25%減少しており、今後の収益の確保の仕方が課題である。
- ・毎年行っている周年フェアについて、今年度は独立にあわせて店舗を一部リニューアルし、6月に10周年フェアを大々的に行った。また10月に地域交流を兼ねた「秋まつり」を開催した。

④その他

- ・7月の分離独立に先立ち建屋を大幅増築し、バックヤードの作業室の拡大・食堂や更衣スペース・トイレ・相談室の一新などを行った。
- ・店舗の付加価値を高めるため、従来事務室で使っていた場所を改装し、個室スペースとした。また店内でフリーwifiサービスを開始した。

4、拠点区分「あっぷる」

「あっぷるホーム」（共同生活援助）

（併設：短期入所）

①事業・定員

- ・共同生活援助（定員12：男性6女性6の2住居）及び併設事業として短期入所（定員4：男性2女性2）を行った。

②支援内容

- ・夜間の支援について、引き続きキーパー（世話人・生活支援員）が各住居で夜勤として勤務する体制で実施した。また、時折発生する緊急の医療機関受診や入院等に柔軟に対応できる体制を整えた。
- ・週1回看護師が出勤し、定期的に血圧等の体調チェックを行った。また希望者のみインフルエンザ予防接種を実施した。

- ・消防・避難等訓練について、自主訓練を2回行った。
- ・初めての試みとしてホーム入居者による宿泊旅行（大阪）を実施した。
- ・住居間合同で花見や食事会、クリスマス会を行った。また法人全体で「つくし運動会」を行った。
- ・支援の課題や情報を共有するため、定期的に職員連絡会議（各キーパー及びサービス管理責任者・管理者など）を開催した。
- ・共同生活援助の入居者は前年度から変化は無く、当法人の日中活動サービス利用者及び一般就労者、他法人の日中活動サービス利用者であった。それぞれ必要な箇所と連絡を取り合い伝達事項等に注意した。
- ・共同生活援助について、1年を通じて契約者数は12人（定員空きなし）であった。年間延べ利用者数は3,641人（1日あたり10.0人）であった。週末帰省や長期療養などの事例があり実利用人員は契約者数より下回った。
- ・短期入所の年間延べ利用者数は478人（1日あたり1.3人）で、昨年度より大幅増となった。利用実績としては当法人の日中活動サービスとの併用が多くを占めた。

③その他

- ・すまいるホームと隣家との境に設置していたブロック塀（土地の前所有者が設置したもの）について、耐震性の懸念から下部を残して撤去した。
- ・防犯上の観点から1階の一部について窓枠に格子を取り付けた。
- ・現状では小規模事業かつ、GHは定員以上に契約が出来ないため、入居者の利用動向により収益の振れ幅がかなり大きくなり、経営上の課題である。

5、拠点区分「センター」

「有田地域生活支援センターつくし」（一般・特定・障害児相談支援）

（在宅リハビリテーション推進強化事業）

（市町村相談支援事業）

「有田圏域基幹相談支援センターあねっと」（基幹相談支援センター機能強化事業）

①事業・内容

一般相談支援、特定・障害児相談支援、受託事業として在宅リハビリテーション推進強化事業及び市町村相談支援事業、基幹相談支援センター機能強化事業を行った。担当職員で役割分担しつつ相互補完により運営合理化に努めた。

<一般・特定・障害児相談支援>

県指定の一般相談支援事業（地域移行・地域定着支援）、市町村指定の特定相談支援事業（計画作成）・障害児相談支援事業（計画作成・相談）を行った。

- ・一般相談支援：支援実績 0件 本年度の支援実績は無かった。
- ・特定相談支援：計画作成実績 253件・モニタリング実績397件
- ・障害児相談支援：計画作成実績 10件・モニタリング実績20件

<在宅リハビリテーション推進強化事業>

和歌山県から受託を継続した。契約した各分野の専門職（下記）とともに地域の家庭や事業所などへ訪問して下記の活動を行った。障がい・躰きの早期発見、早期療育の観点に務めた。

- ・在宅支援訪問リハビリ等指導事業（本年度実績 324件）

地域の家庭や施設・事業所などを訪問して、生活状況の把握、看護師による体調チェック・体調観察、保育士による療育支援、盲学校・ろう学校教員による視力聴力相談・学習支援、理

学療法士による機能訓練・発達観察、音楽療法士による音楽療法などの支援活動や各種相談など

・施設支援一般指導事業（本年度実績 134件）

地域の学校、保育所、障がい福祉事業所などを訪問して、盲・ろう学校教員、保育士、理学療法士、音楽療法士による職員への各種助言・技術指導など

<市町村相談支援事業>

有田地方各自治体（有田市・湯浅町・広川町・有田川町）から受託を継続した。和歌山県福祉事業団と共同で受託し、事業運営にあたっては同事業団「サポートセンターゆい」と連携し、役割を分担・協働し相談支援活動を行った。

・市町村相談支援（支援実績 320人・延べ3,451件：有田市115人・延べ1,213件、湯浅町93人・同1,173件、広川町61人・同735件、有田川町51人・同330件）

主な活動内容

福祉サービスの利用等に関する支援、障がいや病状の理解に関する支援、健康・医療に関する支援、不安の解消・情緒安定に関する支援、保育・教育に関する支援、家族関係・人間関係に関する支援、家計・経済に関する支援、生活技術に関する支援、就労に関する支援、社会参加・余暇活動に関する支援、権利擁護に関する支援、その他

<基幹相談支援センター等機能強化事業>

有田地方各自治体（有田市・湯浅町・広川町・有田川町）から受託を継続した。和歌山県福祉事業団と共同で受託し、「有田圏域基幹相談支援センターあねっと」を共同運営した。「あねっと」は同事業団が主体となって運営し、当法人から職員1名が担当として活動した。

事業計画に沿って、毎月の定例会議によって事例共有等を行いながら下記の活動を実施した。

主な活動内容

- ・相談支援の困難ケースへの対応
- ・圏域の自立支援協議会の運営
- ・各種相談機関との連携強化（連携会議の開催等）
- ・相談支援事業者の人材育成の支援（研修など）、専門的な指導・助言
- ・地域移行や各種制度の普及啓発
- ・その他圏域において専門的知見から必要と認められること

②その他

・「支援センター」は事業開始以来、手狭なスペースで業務を行ってきたが、7月にオリーブ増築建屋内に事務所を移転し、事務室・相談室と、会議にも使える多目的室を設置した。

平成30年度 事業所行事等実施状況

つくし共同作業所 (つ)、早月農園 (早)、カフェ&ベーカリー・オリーブ (オ)、あっぷるホーム (あ)

前半			後半		
4月	4.1	花見 (あ)	10月	10.1	避難訓練 (早)
	4.2	入所式 (つ・早・オ)		10.6	オリーブ秋祭り (つ・オ・早)
	4.21	喫茶はやつき (早)		10.14	つくしバザー (つ・オ・早・あ)
				10.20	喫茶はやつき (早)
5月	5.19	喫茶はやつき (早)	11月	11.1、8、22	インフルエンザ予防接種 (早・つ・あ・オ)
	5.26	地域高齢者家庭配食活動 (早)		11.10~11	旅行：大阪 (あ)
6月	6.2	スポーツ交流会参加 (つ・早・あ)		11.12	レク：ボウリング (オ)
	6.16	喫茶はやつき (早)		11.17	喫茶はやつき (早)
	6.21~27	オリーブ店舗臨時休業 (オ)	11.24	地域高齢者家庭配食活動 (早)	
	6.28~30	オリーブ10周年フェア (オ)	11.26	健康診断 (つ・早・オ)	
7月	7.1	オリーブ独立開所	12月	12.8、10	忘年会 (つ・早・オ)
	7.1	支援センターつくし移転		12.15	喫茶はやつき (早)
	7.7	後援会総会参加 (つ・早)		12.20	クリスマス会 (あ)
	7.13	レク：バーベキュー (早)		12.29~	年末年始休業 (つ・早)
	7.21	喫茶はやつき (早)		12.30~	年末年始休業 (オ)
	7.28	地域高齢者家庭配食活動 (早)			
	7.30	レク：焼きそば大会 (オ)	1月	~1.3	年末年始休業 (つ・早)
8月	8.5	ふれあい夏まつり参加 (つ・オ・早)		~1.6	年末年始休業 (オ)
	8.9	食事会 (あ)		1.19	喫茶はやつき (早)
	8.13~15	夏季休業 (つ・オ・早)		1.26	地域高齢者家庭配食活動 (早)
	8.18	喫茶はやつき (早)	2月	2.16	喫茶はやつき (早)
	8.30	レク：観劇 (早)		2.20	避難訓練 (つ)
9月	9.4	台風臨時休所 (つ・オ・早)		2.26	避難訓練 (早)
	9.15	喫茶はやつき (早)			
	9.22	地域高齢者家庭配食活動 (早)	3月	3.12	避難訓練 (あ)
	9.24	つくし運動会 (つ・オ・早・あ)		3.16	喫茶はやつき (早)
	9.27	避難訓練 (あ)		3.23	地域高齢者家庭配食活動 (早)
	9.28	避難訓練 (つ)		3.25	避難訓練 (オ)